

令和5年度 東京都立秋留台高等学校 学校経営報告

東京都立秋留台高等学校長

中村 勝徳

自己評価の基準 【A】十分に達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

1 学習指導

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(1)「アキルスタンダード」に基づき、基礎基本の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学び（分かる授業、やり取りのある授業、学んだことが深まりつながっていく授業等）の授業実践を通して、生徒の「分かった・できた」をねばり強く応援しながら、思考力・判断力・表現力の育成を図り、「自ら学ぶ力」を養う。</p> <p>(2)「朝の30分授業（ベーシックⅡ・セルフマネジメント）・ベーシックⅠ」等特色ある授業のさらなる工夫・充実を図り「学び直し」（自立活動）の質を高めていく。</p> <p>(3)教科会・教科主任会等を通じて、評価方法や観点別学習状況評価の精度を高め、適切な学習指導につなげていく。</p> <p>(4)教科、学年で資格取得（英検・漢検・数検・情報処理の資格等）に向けて組織的な指導を行うとともに、外部人材等を活用し、個に応じた学習を支援していく。</p> <p>(5)「主体的な学びにつながるよりよい授業づくり」を目指すために、デジタル（スマートスクール・生徒一人一台端末）活用をさらに推進していく。</p> <p>(6)校内の教員同士の相互授業見学や校外での研修に積極的に参加し、学校全体で授業力向上に向けた取組を実施していく。</p>
関連する数値目標	<p>①生徒による授業満足度向上 ②英検・漢検・数検等の資格取得者（合格者）の増加 ③教員同士の相互授業見学（年3回以上）の実施率90%以上 ④ICTやオンライン（Teams）、スマートスクール（生徒一人一台端末）等を活用した授業実践の向上及び生徒の活用技術の向上</p>
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	<p>1 自己評価【B】</p> <p>①学校評価アンケートによる「授業満足度」は、84%で昨年度より向上。また、「授業で基礎基本の学力が身に付いた」は昨年度79%から87%とかなり向上したが、「ベーシックの学び直しは役だっているか」が74%であったことは今後の課題となる。「教員は授業の教材や指導方法を工夫しているか」は87%と比較的高く、これは③の教員同士の相互授業見学をとおして授業改善がなされつつあることの証となる。②英検の合格者が昨年度より2倍になった。特に準2級・2級の合格者が増加した。漢検は受験者がいなく、その代わりに、日本語検定及びリテラス（論理言語能力検定）の上位級の合格者が増えた。④授業ではほとんどの教員がPCを用いて授業をしており、生徒のPC技術向上率74%と昨年度より向上した。</p> <p>2 次年度以降の課題と対応策</p> <p>本校はエンカレッジスクールであり、「学び直しから進路実現へ」をスローガンに、日々教育活動を実施しているが、大学短大・専門学校・就職と多様な進路を実現させていくためにも、これまで以上に生徒の基礎学力の定着に向けて力を入れていかねばならない。</p> <p>●ベーシックの見直しと充実を図り、基礎学力診断テストを導入して生徒の学力向上を目指した取組を組織的に行う。</p> <p>●スキルアップ推進校として、英語検定・情報処理検定等の講習の充実とリテラス（論理能力検定）・日本語検定等の検定を校内で実施し、進路実現のために資格を取得させ生徒に自信をつけてもらう取組を実施する。</p>

2 進路指導

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(7) 生徒一人一人の進路意識が向上するよう、進路選択に向けた組織的な指導を適切に行う。</p> <p>(8) 進路指導部と学年・担任、教科が情報を共有し、生徒・保護者に最新の進</p>
----------------	--

	<p>路情報や生徒状況を提供し、「チーム秋留台」で同じ目線にたって進路活動を実施し、進路実現を果たしていく。</p> <p>(9) 進路ガイダンス・分野別ガイダンス・インターシップ・学校説明会等の進路行事の内容を充実させる。</p>
関連する数値目標	⑤進路決定率 100%
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	<p>1 自己評価【B】</p> <p>⑤実質の進路決定率は 93,1%であり、全体として教員の指導と生徒の意欲もあり順調に進路活動は進んできた。また、「学校の進路指導は充実しているか」は 85%(保護者は 93%昨年度より 8%向上)、「教員が個別の進路相談に応じているか」は 91%と、進路に関しては比較的高い評価を得たことは望ましい傾向である。</p> <p>2 次年度以降の課題と対応策</p> <p>1年生の早い段階から、進路に対する意識を向上させ、それに向けて日常的な指導をしているのが本校の特徴である。ただ実態として、進路に対する意識向上を高めていくこと、決定するまでのプロセス、また決定してからの具体的取組にはかなりの指導が必要となるため、引き続き、2者・3者面談及び外部や地域の企業との連携等をとって「チーム秋留台」としての取組が不可欠となる。</p> <p>●1年生 多摩大学(高大連携)と協力して企業研究を実施し、職業に対する意識を向上させる。2年生 引き続きインターシップを7月に行い(令和5年度は66の事業所で実施。)体験を通して職業に対する意識を深めていく。</p> <p>●スキルアップ推進校として、進路に直結する資格取得を目指していく。また進学希望者に対して、校内で模擬試験を行ったり、進路実現に向けた講習を実施する等して、生徒一人一人のニーズに応じていく体制づくりを行う。</p>

3 生活指導

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(10) 全教職員が一致した指導を組織的に行い、HR、授業(学校設定科目セルフマネジメント等)、部活動、各集会等あらゆる教育活動を通じて、生命の大切さ・基本的生活習慣(挨拶の励行・時間厳守・授業規律、遅刻指導等)・ルールやマナー(頭髪服装身だしなみ等)・通学マナー・SNSルール等を身に付けさせ、自ら考え行動できる自主性や自己管理能力を育む指導を行う。</p> <p>(11) 暴力、いじめ、窃盗等の問題行動に対して厳格に臨むとともに、特別支援教育及び自立支援コーディネーターを核として、スクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカー等の専門家や関係機関と連携しながら未然防止、早期発見、早期対応に向けた取組を行う。また教育相談を充実させ、生徒への支援を行うとともに、相談しやすい体制や環境づくりを推進していく。</p> <p>(12) 経営企画室と連携して、安全管理・教室内の整理整頓、環境美化に努めるとともに、生徒が主体となって校内外の美化活動や防災活動を行うよう指導していく。また、マナーキャンペーンを通じて、交通安全指導を充実させ、通学時におけるルールやマナーを遵守させる。</p>
関連する数値目標	<p>⑥転退学者の減少</p> <p>⑦遅刻回数の減少</p> <p>⑧生徒相談員会、ケース会議の開催 100回以上</p>
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	<p>1 自己評価【C】</p> <p>⑥退学者は減少化傾向にあるが、転学者は若干増加傾向にある。⑦遅刻の回数も多く次年度の課題となる。⑧生徒相談の回数が昨年度よりもかなり多く 146回から 181回へと増加した。一方で「学校の教育相談体制の充実度」は 90%と高かった。この数値から、「多様な生徒に対するきめ細かい指導の必要性」が求められていることが分かる。大半の生徒(92%)が、マナーをきちんと守っているが、一部に守れてない生徒もいて、生徒指導の数が増加していることは、次年度の課題である。今後も、ねばり強く支援を続けながら生活指導を行うとともに教育相談をさらに実施させ、生徒一人一人が安心して学校生活を送れる校内体制を創っていく。</p> <p>2 次年度以降の課題と対応策</p> <p>全教職員がベクトルを一致させて、多様な生徒に対する支援を前提とした生徒指導をきめ細かく実施していく。</p>

	<p>●各学期に授業規律徹底週間を実施し、身だしなみ、チャイム着席、授業規律を全教職員で徹底して行う。生徒会、HR委員会、生活委員会と協力し、生徒自身がルールを守り、守らせる取組を実施する。●マナーキャンペーンを月ごとに登校・下校と時間帯を分けて実施し、登下校時の安全指導、交通マナー指導を充実させる。</p>
--	---

4 特別活動・部活動・健康づくり

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(13) 生徒会や委員会活動を活性化させ、学校行事のねらいを達成するとともに、行事を通じて生徒に成就感や達成感を体験させ、生涯にわたってスポーツや文化・芸術等に親しむ素地を養う。</p> <p>(14) 部活動の加入の奨励と部活動を継続させる働きかけを行い、部活加入率の維持向上を図る。また、部活動に関する活動方針に基づき、チームワークづくりを重視し、学年を超えて生徒同士が高めあう集団づくりを行うことができるよう指導していく。</p> <p>(15) 保健体育の授業、部活動、体育的学校行事を通じて、健康づくりの基礎知識や基礎体力向上のための習慣を身に付けさせ、生徒の心身の健康づくりのための相談・支援体制を強化する。また国際理解やスポーツへの興味・関心を増幅させ「東京 2020 レガシーの構築」を実施していく。</p> <p>(16) 授業や行事等（ベーシックⅡ・読書マラソン）のあらゆる教育活動を通じて、図書館を積極的に活用し、読書活動や生徒同士の主体的な活動の取組を強化する。</p>
関連する数値目標	<p>⑨学校生活の充実度向上 ⑩学校行事の充実度向上 ⑪部活動の加入率年度末 70%以上 ⑫体力テストによる生徒平均が全項目で都平均値以上 ⑬図書館の利用率向上</p>
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	<p>1 自己評価【B】</p> <p>⑨「学校生活の充実度」は 80%、⑩「学校行事の充実度」は 87%、⑪「部活動加入率」は 67.6%、「部活動の充実度」は 80%であった。特別活動・部活動は良くやっているが、まだ教員が主体であり、生徒会や委員会組織をさらに充実させ徐々に生徒が主体となる学校行事を創っていきたい。</p> <p>⑫全体として、体力テストの平均値以上は難しいが、2月のマラソン大会は生徒一人一人が目標を持って実施できたことは良かった。⑬「図書館が、日常の学習や情報収集に役だっている」は 82%であり、教員は 90%と高い割合になっていることは望ましい傾向である。</p> <p>2 次年度以降の課題と対応策</p> <p>●学校行事を生徒会・委員会等が運営できるようサポートし、生徒が前面に出る機会を増やしていく。</p> <p>●毎学期部長会を実施し、校内美化、地域貢献、部活動同士の交流を深める等の取組を企画させ主体性を育てていく。</p> <p>●部活動に関しては、引き続き部活動に参加する生徒を増やし、チームで協力していく力を高め、部活動を継続する力を養い、部活動の活性化を図っていく。</p>

5 募集・広報活動・地域貢献

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(17) 学校説明会・学校見学会・個別相談会の内容を工夫し積極的な取組を行い、中学生に本校の魅力をアピールし、本校を第一志望とする生徒を増やしていく。</p> <p>(18) 「秋留台通信」や「今日の秋留台」等を発行し、ホームページ等を通じて学校の様子を保護者・中学生・地域に発信していく。</p> <p>(19) 地域活動やボランティア活動等を通じ、生徒の自主性を養い、コミュニケーション能力や表現力を身に付けさせる。</p>
関連する数値目標	<p>⑭推薦 2.5 倍、前後期 1.2 倍以上の応募倍率 ⑮HP の更新回数 300 回以上 ⑯学校説明会等来校者数の向上</p>
自己評価及び次年度以降	<p>1 自己評価【B】</p> <p>⑭推薦の倍率 2.7 倍、前期倍率 1.35 倍と数値目標を上回ることができた。⑮HP</p>

降の課題と対応策	<p>更新回数も 324 回、⑯学校説明会来校者数も 1876 人と昨年度を上回った。他に、今年度は校外の説明会に 20 回参加し、中学校への説明会も 15 回実施する等広報活動に力を入れてきたことが、応募倍率の向上につながった。また説明会でも、本校の特徴である、「ベーシック」の授業体験や生徒会の生徒が説明会に参加したこともプラスに働いた。また地域貢献として、二宮神社例大祭や秋留台公園で行われたユニバーサルスポーツ祭・ローズフェスタまた五日市保育園と連携したフードパントリー等に生徒会や各部活動（和太鼓・吹奏楽部・コーラス部等）が積極的に参加し、地域からの信頼を得た。</p> <p>2 次年度以降の課題と対応</p> <p>●「学び直しから進路実現へ」をスローガンに、引き続き入学選抜で応募倍率が向上するよう、学校見学会や学校説明会の回数を今年度よりも増やし、本校の魅力を一人でも多くの中学生に体験してもらう。また、生徒会や部活動の生徒が主体的に見学会や説明会に参加することによって、見学会や説明会の内容を充実させていく。</p> <p>●地域の祭りや活動にこれまで以上に、生徒会や部活動の生徒が参加することによって、地域から信頼され愛される学校づくりを引き続き実施していく。</p>
----------	--

6 学校経営・組織体制

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(20) 組織体制として、調整（分掌・学年・経営企画室が協力して意思疎通を図りながら職務遂行する）と協働（教職員一人一人が当事者意識を持ちチームとして動く）を重視し、企画調整会議やその他各種会議を単なる報告会でなく、情報共有、意見聴収、課題解決と新たな取組の場に変えていく。</p> <p>(21) 経営参画ガイドラインに基づき、学校経営を支える企画立案への積極的な取組と教員と経営企画室が一体となって学校経営上の課題をタイムリーに解決する。</p> <p>(22) 適正な予算編成と計画的・効率的な予算執行を実施。施設設備の安全管理・維持及び迅速な修繕を実施し、財産管理を適正に行うことによってリスクマネジメントを強化する。</p> <p>(23) 日常的な点検を怠らず、報告・連絡・相談を徹底する。また研修等を通じて体罰禁止や服務規律に対する意識を向上させる。</p> <p>(24) 「チーム学校」として外部人材を活用し、計画的な仕事の進行管理に基づき、業務の効率化を徹底し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、業務の無駄を省き、整理と縮減・削減、超過勤務時間の削減を推進する。</p>
関連する数値目標	<p>⑰各分掌が学校経営計画に基づき、PDCA マネジメント・サイクルを確立するために、各分掌の組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施</p> <p>⑱一般需用費の学校経営支援センター利用率 65%以上</p> <p>⑲一般需用費の予算執行率 100%</p> <p>⑳サービス事故ゼロ、体罰ゼロ、会計事故ゼロの実施</p> <p>㉑教職員の個別の超過勤務時間の削減と年休取得率の向上</p>
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	<p>1 自己評価【B】</p> <p>2 次年度以降の課題と対応策</p> <p>⑰学校運営連絡協議会へ提出し、様々な意見をいただいた。⑱63%、⑲90%以上達成。⑳事故等はゼロ ㉑年間 15 日以上以上の休暇取得率は 66%。昨年度の反省から超過勤務する教職員が多いため、月に 1 回の定時退庁日を設定するとともに、年次有給休暇 15 日以上取得を取るよう促してきた。まだまだ課題は多いが、徐々に改善する傾向にはある。また「学校は計画的な運営や業務の効率化によって、ライフ・ワーク・バランスの実現を図っているか」が昨年度 26%だったのに対して今年度は、63%と大幅に向上した。他に「各学年・分掌が協力して意思疎通を図りながら職務遂行しているか」に対しては 85%の教員が肯定的に回答している。</p> <p>●次年度も引き続き、「調整と協働」を意識した組織体制をつくり、ライフ・ワーク・バランスの向上に努めていきたい。特に、次年度は、これまでの月 1 回の定時退庁日に加えて、水曜日の放課後を会議・研修 DAY とする。そしてそれ以外の曜日を生徒と教員が主体的に関わる日とし、面談や補習・講習、部活動の活性化、地域貢献等を実施していく。</p>

